

米企業・市民の景況感は改善へ～消費者信頼感指数・シカゴPMIなど

2020年5月25日(月)

今週はそれほど目立った経済指標の発表予定やイベントは予定されていません。
5月末を前に、世界的に広がるロックダウン緩和の流れなどをにらみながらの展開が見込まれます。
そうした中で比較的注目を集めそうな米指標がいくつかありますので確認してみましょう。

まずは26日23時に発表される5月のコンファレンスボード消費者信頼感指数です。

コンファレンスボード消費者信頼感指数は、前回の4月分が86.9と、3月の118.8(速報時点では120.0)と、
一気に31.9ポイントの急降下となりました。

水準的には2014年以来、落ち込み幅では第1次オイルショックのあった1973年以来となりました。

内訳が非常に特徴的で、現況指数が166.7から76.4まで、過去最大の落ち込み幅となる90.3ポイントの低下を示したのに対して、
この後の期待を示す期待指数は86.8から93.8に7ポイント上昇しました。

企業が新型コロナウイルスの影響を一時的なものとし、その後の回復を期待していることがはっきりと出た指標でした。

こうした状況を受けて今回の予想ですが、87.0と前回並みの数字が見込まれています。

ロックダウン緩和の動きが期待されており、今後の期待指数がより改善すると見られる一方、

雇用減の動きなどから現在の厳しい状況が示されるとみられ、前回並みの水準に落ち着くと見られます。

とはいえ、全体の数字の下げ止まり、今後の期待の高まりなどが印象付けられ、ドルを支える材料となりそうです。

続いて、28日21時半には米国の第1四半期GDP(改定値)と4月の米耐久財受注(速報値)が発表されます。

新型コロナウイルスの影響を受けて、第1四半期GDPは速報値ベースで前期比年率-4.8%と2008年以来の下げ幅となりました。
消費や設備投資を通じて世界経済を引っ張っている原動力の一つである米国経済の大きな鈍化は、
新型コロナウイルスの影響を受けた世界経済への警戒感につながりました。

今回の改定値でも同水準が見込まれています。

在庫などのプレもあり、ある程度の数字の上下はあると思われますが、

ただ、かなり大きくずれない限り相場への影響は限定的(速報値発表時点で織り込み済み)となります。

同時に発表される4月の耐久財受注ですが、前回3月は前月比-14.7%(速報時点-14.4%)と、
2014年以来の大幅な落ち込みとなりました。今回の予想は-18.0%とさらに落ち込む見込み。

さらに、今回は前回と一つ大きく違う部分があります。

前回の大きな落ち込みは商用輸送機の落ち込みが主要因でした。

新型コロナウイルスの影響を受けて移動制限もあり、米航空大手ボーイングの受注は、

発注キャンセルなどが広がる中で前月比300%の大幅減。

輸送を除くコアの前月比は-0.4%にとどまっています。

航空機を除く非国防資本財(コア資本財)の受注は+0.1%とプラス圏。予想は-6.7%でしたので、

航空機以外の受注の底堅さが印象付けられました。

しかし、今回はコアも-15.0%と大きく落ち込む見込み。製造業全体に厳しい状況になっていることを示す見通しとなっています。

予想前後の数字が出てくると、こちらはドル売りの材料となりそうです。

金曜日29日22時45分には5月のシカゴ購買部協会景気指数(PMI)が発表されます。

前回4月分の数字は35.4と、3月の47.8から悪化しました。好悪判断の境は50であり、かなり下回っている印象。

水準的にはリーマンショックの影響が残った2009年3月以来11年1か月ぶりの低水準でした。

シカゴPMIの構成要素のうち、特に厳しい数字となったのが21ポイントと過去最大の落ち込み幅を示した新規受注。

生産も19ポイント低下。水準的には40年弱ぶりのところまで落ち込んでいます。

雇用も11.1ポイントの大幅な低下。受注残はわずかな低下となりました。

一方で入荷遅延は大きな上昇で1974年4月以来の高水準となりました。

一般的に入荷遅延は生産が間に合っていない状況で、好況期に起こることが多いですが、

今回に関しては新型コロナウイルスの影響で生産が止まっている＆物流にも制限がかかるという状況であり、

上昇も好数字とは言えないところです。

こうした状況を受けての今回の数字ですが、40.0と改善が見込まれています。

シカゴPMIの調査対象地域には、全米の郡の中でもっとも感染者数が多い(22日付)クック郡(シカゴ市の一部)が含まれるなど、

新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく出ている地域ですが、

こうした地域でもロックダウン緩和への期待感など、前向きな動きが出ていることが感じられる予想となっています。

予想もしくはそれ以上の数字が出てくるとドル買いの安心感につながりそうです。

なお、シカゴPMIの15分後に5月のミシガン大学消費者信頼感指数の確報値が発表されます。

15日に発表された速報値では、4月の71.8に対して68.0まで悪化すると事前見通しに反して、73.7と改善を示し、市場を驚かせました。

今回の確報値でも同じ73.7が見込まれています。

速報値と変わらずということで予想前後の数字ではインパクトは薄いですが、

4月から改善した数字ではあり、シカゴPMIが強めに出ると、その後のドル買い基調に寄与する可能性があります。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド